

寺社を視点場とした眺望景観の実態把握 —甲府盆地を対象として—

山梨大学大学院医学工学総合教育部 学生会員 ○加藤 友浩
山梨大学大学院医学工学総合研究部 正会員 大山 勲

1. はじめに

四方を取り囲む山並みの眺望は、盆地における重要な景観である。甲府盆地では近年、高層マンションや鉄塔などにより、眺望景観は失われつつある。景観法施行後、各地で景観計画策定に向けての動きが活発化しているが、眺望景観をコントロールする取り組みについては、まだ多くは見られない⁽¹⁾。

本研究では、眺望の主要な視点場のひとつとして挙げられる寺社に着目する。そこは、例えば神体山の山アテに見られるように、地形や景観との関係性が強く、地域の歴史的・意味的景観として重要である。寺社を視点場として、眺望景観の実態を把握することによって、今後の眺望景観保全に役立つ知見を得ることを本研究の目的とする。

既往研究には、神社の立地と景観について、立地特性を明示したもの¹⁾や地質との関わりを見たもの²⁾がある。また山並み景観に関しては、視点場・視対象を特定し、山並み景観の特性を把握したもの³⁾や3次元CADを用いて建築高度規制を検討したもの⁴⁾がある。

2. 方法

2. 1 対象

甲府盆地内における対象地を図1に示す。対象地は、中世から近世の城下町の骨格を残す都市部を含み、その北側を中心に多くの寺社が見られる地域である。対象地内の61箇所の寺社を調査対象とする。

2. 2 方法

- (1) 寺社へ行き、①山アテの有無、②寺社の軸線上からの眺望、の2点に主眼を置き、写真撮影を行う⁽²⁾。
- (2) ①で山アテの見られたものについて、文献調査によって寺社と山との関係性を探る。
- (3) ②の眺望景観の構成要素を抽出し、寺社の立地との関連を分析する。

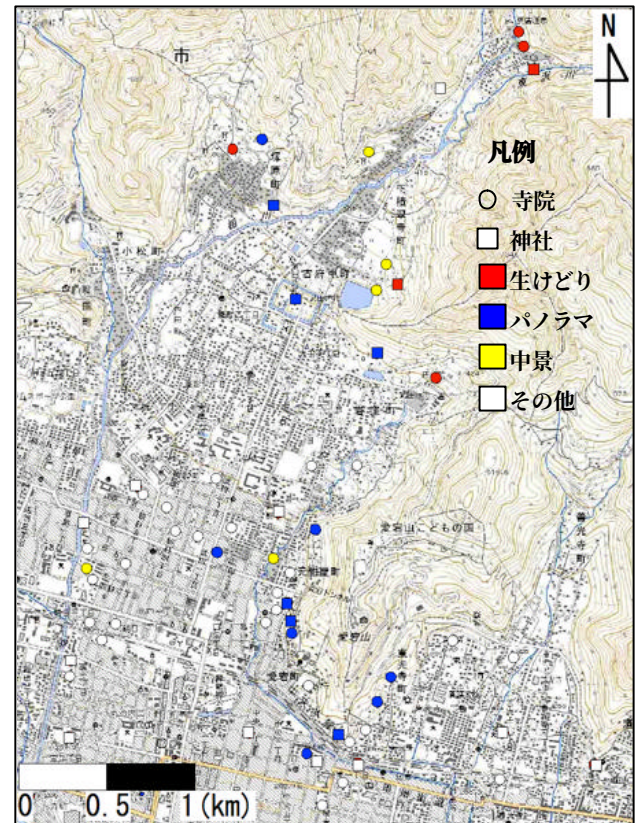


図1 対象地と寺社

3. 結果・分析

対象地における寺社の立地については、大きく山辺と平地の2つに分類できる(表1)。

表1 寺社の立地分類

	山辺	平地	計
寺院	22	21	43
神社	10	8	18

3. 1 山アテ

寺社 61 箇所のうち、山アテが見られたのは瑞岩寺、酒折宮の2箇所だけだった。

このうち、酒折宮については文献調査⁵⁾から、酒折宮の旧社地が背後の山の中にあったこと、背後の山が、御室山として語り継がれていることが示唆された。



図2 酒折宮の山アテ

キーワード 眺望景観 寺社 山アテ

連絡先 〒400-8511 山梨県甲府市武田4-3-1 1 Tel: 055-220-8598

3. 2 眺望景觀

良好な眺望を有する視点場は 22 箇所が抽出された（他は市街地の中に埋もれて眺望景觀が無かった）。そこにおける眺望景觀の構成要素を抽出した(表 2)。またこれらは、3つの眺望景觀の型に分類することができた。

(1) 生けどり⁶⁾型

これは、中景の山が遠景の山並みの裾を抑えて、山並みが生けどりとなる型である。

この型は寺院に 4 箇所、神社に 2 箇所見られた。また、この型は、6 箇所全てが山辺に立地していた。これらを地形図で確認した結果、全てにおいて地形が奥にくぼんでいる場所に立地しているという共通点を得た。

(2) パノラマ型

これは、近・中景の建物や街並みの先に山並みが広がる型である。近景の植栽などが、山並みに重なる場合も、それを取り除いたときに山並みが広がるものについてはこの型に含めた。

この型は寺院から 5 箇所、神社から 6 箇所が抽出された。この型の見られた立地についても、全てが山辺であった。そのうち 9 箇所が地形の突出している場所において見られた。

(3) 中景型

これは、遠景は望めないが、中景の山並みもしくは単体の山を望むことのできる型である。

この型は、5 箇所の寺院から抽出された。立地については、山辺が 3 箇所、平地が 2 箇所となっていた。

表 2 構成要素の抽出

	名称	軸線上の眺望			眺望型	立地
		近景	中景	遠景		
寺院	積翠寺	樹木	山(左右)	山並み	いけどり	山辺
	瑞岩寺	樹木・農地	山(右手)	盆地・山並み	いけどり	山辺
	恵運院	樹木・山門	街並み	山並み	パノラマ-2	山辺
	慶音院	住宅・道路	街並み・山	山並み(右に富士)	いけどり	山辺
	興因寺	住宅・農地	農地・住宅・山	×	中景	山辺
	禅林院	住宅・樹木・道路	山	×	中景	山辺
	興国寺	樹木	山	×	中景	山辺
	円光院	住宅・樹木	山(左手)・盆地	山並み	いけどり	山辺
	華光院良林寺	住宅・道路・電柱	街並み	山並み	パノラマ-1	山辺
	行蔵院	樹木・道路・住宅	山	×	中景	平地
	法光寺	樹木・道路・電柱・住宅	山並み	×	中景	平地
	成田山不動堂	樹木・住宅・道路	街並み・マンション	山並み	パノラマ-2	山辺
	婦命院	樹木・農地・住宅	街並み	山並み	パノラマ-2	山辺
	能成寺	樹木・住宅	街並み	山並み	パノラマ-2	山辺
神社	日吉神社	樹木・住宅	山	盆地・山並み	いけどり	山辺
	金峰神社	住宅・道路・農地・草地	街並み	盆地・山並み	パノラマ-2	山辺
	若宮八幡神社	樹木・鳥居・住宅・電柱・池	森・街並み・山並み	山並み	いけどり	山辺
	武田神社	樹木・道路・街路樹・建物	マンション・街並み	山並み	パノラマ-1	山辺
	護国神社	樹木・電柱	街並み	山並み	パノラマ-1	山辺
	八雲神社	住宅・電柱・堀・鳥居	街並み・山	山並み	パノラマ-2	山辺
	愛宕山祖霊神社	樹木・鳥居・住宅・道路	街並み	山並み	パノラマ-2	山辺
	山八幡神社	鳥居・樹木・道路・住宅	×	山並み	パノラマ-1	山辺

(1), (2)より、山辺の地形の変化している箇所にくつもの寺社が立地しており、良好な眺望が得られた。よって、これらの寺社の立地場所の選定時において、眺望が十分考慮されていたのではないかと考えられる。

(3)については、中景にある山と参道の方角などの寺社の空間構成との関係により良好な眺望が得られたのではないかと考えられる。

4. おわりに

4. 1 まとめ

本研究から眺望景觀保全のための基礎的知見として、以下のものを明示した。

(1) 2 箇所の山アテを明示し、その場所における寺社と山との関係性が示唆された。

(2) 眺望景觀の構成要素から、3つの主要な眺望景觀の型を抽出し、寺社の立地特性を把握した。

4. 2 今後の展望

本研究では、寺社からの主要な眺望景觀を定性的に把握した。対象地における山アテは少数ではあったが、寺社と山との間及び、寺社と背後の山の一体となった景觀を見る視点場の景觀保全が必要であると考えられる。また、眺望景觀については、主対象である遠景の山並みを望む景觀を高さ規制などによって保全していく必要がある。このとき、いけどり型については規制対象とする範囲は限定可能である。また、パノラマ型についても、寺社の立地が山辺斜面であることから、視点場付近の規制が効果的であると考えられる。

【補注】

(1)眺望景觀規制については、フランスのFUSEAUや富士宮市の都市景觀条例といった例がある。

(2)拝殿の中心線と背後の山の頂が来る場合のみを山アテとみなし、拝殿と対面方向の写真を撮る。また、拝殿の中心線及び、参道の中心線の延長を軸線とみなし、拝殿に背を向けて写真を撮る。

【参考文献】

- 1)日高圭一郎他:地方における名所とされた神社の立地特性に関する研究, 日本建築学会計画系論文集第597号 PP.93-100, 2005.11
- 2)澤澤紀子・堀越哲美:景觀としての神社の立地にみる信仰の場と自然環境の関わり, 日本都市計画学会都市計画論文集 No.39-3 PP.145-150, 2004.10
- 3)平尾和洋他:京都の山並み景の視点場特定とその類型化, 日本建築学会計画系論文集第462号 PP.147-156, 1994.8
- 4)片山律:歴史都市における都市景觀評価と計画手法に関する研究, 第32回日本都市計画学会学術研究論文集 PP.25-30, 1997
- 5)山梨郷土研究会編:山梨の歴史景觀, 山梨日日新聞社, 1999
- 6)都市デザイン研究体:日本の都市空間, 朝国社, 1968